

小林道夫 Michio Kobayashi (ピアノ)

東京藝術大学音楽学部楽理科卒業。在学中より伴奏者として活動を始めた。1956年毎日音楽賞新人奨励賞を受賞。この頃より中山悌一氏の伴奏者に選ばれ、ドイツ音楽について同氏より徹底した訓練薫陶を受けた。1960年前後から、来日した世界的な音楽家たちとの共演が始まり現在までに、声楽では、ヤノヴィッツ、アメリング、マティス、デ・ラ・カーザ、オジェー、ヘフリガー、シュライヤー、エクヴィルツ、ヒュッシュ、フィッシャー・ディスカウ、プライ、器楽では、ランパル、ツェラー、ニコレ、グラーフ、ラルデ、ラリュ、コッホ、ホリガー、ダム、スーク、シルヴァースタイン、ヘッツェル、ヘルシャー、ベッチャー、フルニエ等の芸術家たち、また、カラヤン指揮のベルリン・フィルハーモニー、ミュンヒンガー指揮のシュトゥットガルト室内オーケストラとステージをともにしている。1965年北西ドイツ音楽アカデミー(デトモルト市)に留学。チェンバロと室内楽を学び1966年秋に帰国後は、鍵盤楽器奏者、室内楽奏者、伴奏者、また、指揮者として極めて多方面にわたって活躍している。1970年第1回鳥井音楽賞(現在のサントリー音楽賞)を受賞。1972年ザルツブルク国際財団モーツァルトウムより記念メダルを受けた。1979年モビル音楽賞を受賞。2019年度第30回日本製鐵音楽賞特別賞を受賞。国立音楽大学大学院教授、東京藝術大学大学院客員教授、大阪芸術大学大学院教授、大分県立芸術文化短期大学客員教授を務めた。フランツ・シューベルト・ソサエティ元理事。

日野妙果 Taeka Hino(メゾ・ソプラノ)

国立音楽大学卒、ウィーン国立音楽大学を首席で卒業。ドイツ・ラインスベルク音楽祭でティーレマン指揮《ナクソス島のアリアドネ》の作曲家役でオペラデビュー後、欧州の主な歌劇場や国内の新国立劇場、二期会などで活躍。交響曲や宗教曲のアルト・ソリストとしても信頼され、J.アラガル国際オペラコンクール2位(スペイン)、パルマ・ド・マヨール国際室内楽コンクール3位(イタリア)受賞。二期会会員として、日本歌曲やリートにも定評あり。

瀬川祥子 Sachiko Segawa(ヴァイオリン)

4歳よりヴァイオリンを始め、桐朋学園高等学校音楽科、モスクワ音楽院、パリ国立音楽院他で学ぶ。ヴィオッティ国際コンクール最高位他を受賞する。今までにモスクワ・フィル、メキシコ州立管弦楽団等との共演などをはじめ、日本、欧州各地でソリスト、室内楽奏者として活動している。ナフェア弦楽五重奏団、トリオ・ソ・ラのメンバー。これまでに「イザイ無伴奏ソナタ」「モーツァルト ヴァイオリン・ソナタ」等のCDをリリース。

田原綾子 Ayako Tahara(ヴィオラ)

第11回東京音楽コンクール、第9回ルーマニア国際音楽コンクール優勝。国内外でソロリサイタルが定期的に行われており、ソリストとして読響、都響、東響、東京フィル等と共演。室内楽奏者としても国内外の著名なアーティストと多数共演し、オーケストラの客演首席を務めるなど、活躍の幅を広げている。現代音楽にも意欲的に取り組み、新作委嘱や世界、日本初演も数多い。第23回ホテルオークラ音楽賞受賞。

深沢亮子 Ryoko Fukasawa(ピアノ)

12歳で全日本学生音楽コンクール小学校の部で全国1位、文部大臣賞を受賞。15歳で第22回日本音楽コンクール首位受賞。17歳でウィーン国立音楽大学に留学、1959年同校を首席で卒業。翌年、ウィーン楽友協会ブラームスザールにおいて海外デビュー・リサイタルを開催し、絶賛される。1961年ジュネーヴ国際音楽コンクールで最高位入賞(1位なしの2位)。以来ヨーロッパや南米、アジアの主要都市でリサイタルや室内楽、オーケストラとの共演等、国際的な舞台で活躍。共演した指揮者はロブロー・フォン・マタチッチ、ギュンター・ヴァント、ハインツ・ヴァールベルク、小澤征爾他。オーケストラはウィーン・ニーダーエスターライヒ・トーンキュンストラ管、ウィーン室内管、グラーツ・フィル、N響、東響、読売日響他。室内楽は新・旧ウィーン八重奏団、シュトイデ弦楽四重奏団、ブリュッセル弦楽四重奏団他。日本の作品も内外に数多く紹介する。また、度々ウィーンのベートーヴェン国際ピアノ・コンクール、日本音楽コンクール他の審査員を務める。毎年リサイタルを開催しており、2017年の模様はNHK-BSプレミアム、NHK-FMで2020年まで国内外で10回放映、放送された。2018年にはデビュー65周年記念リサイタルを東京とウィーンで開催。2023年には東京でデビュー70周年記念演奏会を行った。著書、楽譜、CDも多数。最新CD「ピアノ愛奏小品集」は『レコ芸ONLINE2024年10月号』において推薦盤となる。英国ケンブリッジ国際伝記センター(IBC)により「最も優秀な100人の音楽家」に選ばれる。永井進、グレーテ・ヒンターホーファー両教授に師事。フランツ・シューベルト・ソサエティ理事。

富岡廉太郎 Rentaro Tomioka(チェロ)

桐朋学園大学を経てバーゼル音楽院を修了。06年ウェールズ弦楽四重奏団を創立。08年ミュンヘンARD国際音楽コンクールカルテット部門第3位。14年6月から17年3月まで、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団客員首席奏者を務める。17年11月より、読売日本交響楽団首席奏者。

黒木岩寿 Iwahisa Kuroki(コントラバス)

東京芸術大学卒業、同大学院修士課程修了。安宅賞、福島賞受賞。神奈川フィル首席奏者を経て、東京フィルハーモニー交響楽団首席奏者に就任、現在に至る。バロックバンドのラ・ストラヴァガンツァ東京主宰。室内楽ではM・アルゲリッチ、Y・バシュメット、M・ブールグ、P・メイエ等と共演。代々木上原ムジカーサ、長野市芸術館などのプロデューサーを歴任。兵庫県芸術文化センター管弦楽団(PAC)にも出演している。



ACCESS
王子ホール
東京都中央区銀座4丁目7-5